

サウ-デ教会女性部会報

2015年 8月 N° 282



もくじ

ページ

| | | |
|----------------|------------|---|
| ● 巻頭言 「神との交わり」 | 丹羽昭男師 | ② |
| ● 救いのあかし | 藤木耐子 | ④ |
| ● あかし | 松茂良達子 | ⑤ |
| ● ちよつと立ちばなし | 高田信子 | ⑦ |
| ● もしもし、お元気ですか？ | 原田泰子 | ⑧ |
| ● みことばの小箱 | やまだはつこ | ⑨ |
| ● 俳句／短歌 | 山田初子 | ⑨ |
| ● 詩 | 平良節子 | ⑨ |
| ● ほうこく／個人消息 | 管原ミノノ・倉内お玉 | ⑩ |
| | 中山輝子・浅井津哉子 | ⑩ |
| | 原田泰子・中島ますみ | ⑪ |
| | 崎山美知子 | ⑪ |
| | 益本藤子 | ⑫ |

巻頭言

丹羽 昭男 師

「神との交わり」

マルコ 1章 35節

「1」よい習慣をつけよう

悪い習慣は何も努力しなくてもすぐにつく。しかし、良い習慣は努力しなければいけない。クリスチャンがクリスチャンとして生きるためにも、良い習慣をつけなければならない。努力しなければならぬ。

「2」デボーションとは

「神との交わりの時間」である。神と交わるとは

「3」場所と時間

1、時間
毎日、デボーションの時間をもつことである。いつでも良いが、やはり「朝」が良い。起きてすぐの時間をデボーションに当てるのが良い。その時間の長さは自由である。1時間でも、30分でも、10分でも

「神との会話」である。私たちの方から神に語ることは「祈り」である。感謝、賛美、罪の告白、願いなどである。
そして、今度は神が言われることを聞くことである。どのようにして聞くのか。「聖書の御言葉」を通してである。私たちが聖書を読んでいく時に、御言葉を通して神の御言葉が聞こえてくる。「デボーション」とは「祈り」と「御言葉を読むこと」である。

良い。10分であれば5分間は「祈り」にも、もう5分間は「聖書を読むこと」にすれば良い。

2、場所

場所はどが良いのか。どこであつても良い。台所、居間、公園、メトロ、バスなど。しかし、やはり「自分の一番おちつく部屋」でもつことが良い。

「4」実行

それでは実行しよう。多分、はじめからうまくいくとは限らない。何回も失敗することだろう。昨日はできたが今日はできないこともある。でもまた始めればよい。何回も何回もやり直して続けていくうちに段々とできるようになってくる。とにかく続けることである。そうすると必ず習慣となつてくる。朝起

きると自然に顔を洗うように、朝起きると自然に「デボーション」ができるようになってくる。

「4」実行

朝のデボーションがあなたを変える。何かがあなたの中に起こってくる。あなただけではない。あなたの周りも変える。家族も、友人も、教会も変える。神が変えてくださる。

では、デボーションを始めよう。失敗しても何回も何回もやりなおそう



特集

救いのあかし

とくしゅう



信仰の道へ導かれた

きつかけから現在について

お話をうかがいました

藤木耐子姉



受洗日2002/12/20

*日曜学校へは行ったが45年ほど離れていた

*義妹が3か月ほど我が家へ泊っていたとき、

教会行きを勧められた

*ちよつど病氣のことや心配事があつたので

戻つてみようとサウデー教会へ

*讚美歌が懐かしく、先生方のお話しに教えら

れ、夫を誘い一緒に行くようになる

*受洗は「分かつてから」と思っていたが、皆

さんから熱心に勧められ祈っていた

現在では、

*生きる目的と明日への希望が与えられた

*問題があつても神様が解決してくたさると

いう平安がある

*自宅で働いてくれる人たちに恵まれて、日々

安心した生活を送れることに感謝



祈りの課題

*家族や友人など、教会の皆さまの健康



「どうしたら自分の罪を取り去ってくださるのか、聖められるのか、と祈りながらもその難しさを感じて、だいたい苦しみました」と語る耐子姉。そんな悩みの只中で、ある不思議な体験をされた。「ふと、洞窟の中の暗いところで虫に刺され、出よう出ようとあちこち見ていたら、上の方に明かりが見えた。少しずつそちへ向かっていくと、だんだん虫が減ってゆくのを感じた」。耐子姉はこの時、罪について示されたと感じ美香師にお話しすると、「その明かりはイエス様の方へ向かっているのよ」と言われ腑に落ち、「罪の告白はイエス様を通さなければ」と確信し、真の悔い改めに導かれ、罪への苦しみから解放されたそうだ。そして、いつも「愛が何より大事。愛ある人間

喜んで過しています。お陰様で趣味が多い私は毎日、体操や水泳、空手に歌にダンスといった習い事で忙しくしています。しかし、日曜の礼拝は特別な気持ちで迎えています。

4年ほど前、病気になるって苦しんでいた時、牧師に祈ってもらいたいと思ったのがきっかけで、あちこち教会を尋ねました。その後、洗礼を受け、病氣も癒されたのですが、教会生活においてはどこへ行っても何か満たされない気持ちでした。でもサウード教会に初めて来たときから喜びがあふれて嬉しくなりました。そして、間もなくあの頑固な主人も導かれ、短い教会生活でしたが夫婦そろって大きな恵みの中を歩ませてもらいました。しかし、それまでの主人は酒やタバコを好み、その粗暴な振舞いに私や子供たちは怯え苦しみました。「一生こんな苦勞をするのか」とずっと辛かった。

でありたい」と耐子姉。長年にわたって弱さを覚えておられる方への訪問や電話は、その祈りの結実なのであろう。

あかし



神の御前に

松茂良 達子

今年に入って主人が亡くなり、娘のスエリー家族も日本へ戻ったりで急に誰もいなくなつて寂しいと感じることも時にはありますが、残された人生を二倍楽しむつもりで、神様に感謝しながら毎日を

でも、神様に出会って口癖だった「このバカヤロー」は「ありがとう」に変わり、人を寄せ付けない怖い雰囲気は人懐っこい笑顔に変わって、子供や孫たちをいつも迎えるようになりました。私のことも氣遣つてくれる優しくいい人になりました。いつの間にか主人を中心に家族が集まるようになり、主にあつて一致し始めました。さらに家族を驚かせたのは、日々、透析で苦しみながらも文句や弱音を吐かず、日曜日の朝は、5時に起きてお風呂に入り髭を剃り、自分できちつと身なりを整え喜び行くその姿でした。

召される少し前、長男に頼み車イスで主人は買い物に出かけ綺麗な革靴を買ってきました。「どこにも行けないのにどうして?」と聞くと、「死んだらこの靴を履かせてくれ」と言いました。他にも、火葬や葬式代のことなどを長男に託していました。死を

予感しながらも怖がつたりしないので、ちゃんと受け止
め自分なりの準備を整えていたのだと思います。
最期は、体調を崩して入院し、でも翌日には帰っ
てくると誰もが疑わなかったその朝、一人静かに召
されていきました。その顔は皺や汚れなく、若々し
くて活力と喜びに満ちていました。その時、間違い
なく天国へ迎えられたんだと安心しました。

それから、「どんなに少人数になっても続けて」
と主人が願っていた家庭集会は、今も毎週守ら
れています。こんな大きな恵みをいただて感謝せず
にはいられません。



日曜日は私にとつて特別で
す。礼拝は欠かさずにいつも
かみさまに感謝をささげたいと思っ
ています。

しく手伝つてくれ本当に助かっています。そうやっ
ていつも神様に守られていること思わされています。
そして、祈りが応えられすべて最善にしてくだっ
ていることに心から感謝しています。



原田泰子姉
同居する孫（三男の長男）が、「おばあちゃん、
祈るの手伝つて」つて言ってきたので、「ああ、いい
よ」と答えてやると、「友達のお父さんが病気だか
ら早く治るように、おばあちゃん一緒に祈つて欲し
い」「そう、じゃ時間を決めて祈ろう」と、寝る前、一緒
に心を合わせて祈るようになりました。それから5
日後くらいのこと、孫は教会のキャンプに行った時
そのお友達から「お父さんよくなったよ」と聞かさ
れ喜んで帰ってきました。「でも、もっと元気になる
ように祈り続けよう」と二人で話しました。今回の

ちよつと

立ちばなし！



教会ではいつもイエス様の
ハナシでいっぱい
あちらこちらから聞かされてくる
ステキなお証しをお届けします

高田信子姉

膝の痛みで5月26日に手術をしてからお
陰様で順調に回復に向かっています。教会にも
杖を支えになんとか出席できるようにもなりまし
た。皆さまには祈っていただいたきありがとうございます
ました。まだしばらくはリハビリが続きますが、検査
の度に医師から「問題ないですよ」と言ってもらい
安心しています。ただ、「これまでは一人でどこにで
も行けたのにな」と不便を感じていますが、同居す
る娘はよく世話をしてくれますし、孫娘も傍で優

ことで孫も「祈りは必ずイエス様に届く」とわか
つてくれたみたいです。朝、私が部屋で静かに祈っ
ていると、後ろからそつと入ってきて、「一緒に祈っ
ていい？」なんて・・・。両親じゃなくていつも私
を頼つて何でも話してくれる彼に私も精一杯祈
りを通して応えてあげたいと思っています。
次男夫婦のところの孫（男児）も、私より背丈も大
きくなっていますが、教会で会つと「おばあちゃん」
と顔をすり寄せ甘えてきます。他の孫たちも私を
大事に思ってくれていて本当に可愛い孫たちです。
彼らの為にも元気で長生きしなくちゃ、と励まされ
ています。そして時々、父を思い出して感謝します。
父の信仰がなかったら、今こうして孫と幸いな祈
りのひと時をもつことも無かつたんじゃないかと思
うんです。私は今がいつちばん幸せです。そんな恵
みをいただけてイエス様に感謝しています。



もしも、

おげんきですか？



やまだはつこあね
山田初子姉

わたしが長い間、教会の奉仕をして来れたのは、神様の備えがいつもあったことと、子供たちの理解があったからこそだと思つて感謝しています。文句一つ言わないで、家のことも弟たちの面倒も協力してやってくれました。子供たちは「ママイ、出来るだけ奉仕は続けなよ」と言ってくれていましたし、私ももう少し続けたい気持ちがありました。歳をとつてくると周囲の方が心配してくださるので、これも神様の御心なのでしょう。いつからか遠慮させてもらいました。そして今、子供たちに感謝の気持ちを込めて手編み

の毛布を編んでいます。ふたり掛け用を8人分だから、早くしないと迎えが来てしまうので間に合わなくなってしまうわね。

これまでのことを思い出しながら、ひと編みひと編み恵みを数えての作業は幸いな時間です。



たいらせつこあね
平良節子姉

この時期、とくに寒くなると足の痛みで歩くのも大変なんです。20年前から痛みは感じていて、いろいろな治療をしましたが効果はありませんでした。毎週礼拝に行くにも、朝、起きてみてからでないと、その日、行けるかどうか分かりません。それでも、神様を信じて頼っていれば楽でいられる気がします。ですから、すべて神様にお任せして、毎日祈るような気持ちでに過してしています。



こぼこ みことばの小箱

としはじ
年初めにいただいた御言葉は何でしたか？

すがわら
菅原ミヨノ姉 詩編13篇5章／リビングバイブル

わたしは常に主とお恵みによりすがり、主のすくいを喜びます。
*家族全員が「救われた」ということが、どんなに大きな恵みであるかを改めて教えられています。最近では先を思つて焦つてばかりですが、いつも御言葉に励まされ力を与えられています。

くろつち たまあね
倉内お玉姉 詩編37篇34節／リビングバイブル
神様が乗り出される時を、じつとしんぼうして待ちなさい。そして、神様の道をしつかり歩んで行くのです。

*この御言葉をいただき感謝しました。とくに「しんぼうして」を心に留めています。問題があつても信じてしんぼうしていれば、信仰が強められるでしょう、と思つています。

なかやまでこあね
中山輝子姉 โรม12章18節 新共同訳

すべての人と平和に暮らさない。
*適当な御言葉をいただいたと思つて感謝しています。色々なことが耳に入ってきますが、「それに誘われず、惑わされないで平和に過すように」と神様が願つておられるのだと受け取りました。

あさいつやこあね
浅井津哉子姉 詩編13篇5節 口語訳



しかしわたしはあなたのいつくしみに信頼し、わたしの心はあなたの救いを喜びます。

*この数年、戦いの中(身体の弱さ)にあつて、主の慈しみが身に沁みています。孤独な寂しさに襲われた時にもイエス様のお姿、愛を示してくださいました。すべての願いが主の御業によって導かれていと確信しています。ですから、今ではすべてを主にお委ねし喜んでいきます。

原田泰子姉 詩篇31篇24節 リビングバイブル

さあ、元氣を出しなさい。もし、神様に信頼しているなら、雄々しく立ち上がりなさい。

*神様に励ましていただいたようで本当に元氣がわきました。そして、どんな難しい人間関係にあつても遠慮せず、熱心に祈りをささげながら雄々しく立ち上がり、言葉や態度において主の愛を示してゆけたらと思つています。



■ 詩 し ■

「信仰」

益本藤子姉

若いときには、あれも欲しい、これも欲しい、ああもしたい、こうもしたい、と夢だらけ

それにはお金、まずお金

「働かざる者食うべからず」

食べていくには働かないと

朝早くから夜遅くまで働いて

貯つたと思つたら

みんな病気で使つてしまいました

今は、喜びが欲しい

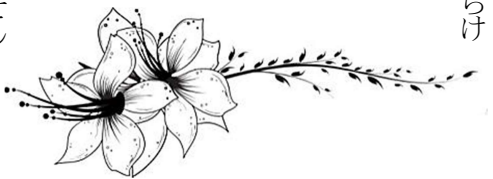
苦い顔より笑顔が欲しい

そこへ行くには、道を探さねばなりません

信じます

愛なるお方を信じます

イエス・キリストを信じます



中島ますみ姉 ルカ9章23節/新共同訳
わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負つて、わたしに従いなさい。
*結婚してから経済的な問題などいろいろ苦労してきましたし、誘惑もありましたが、祈りの中でもいつも神様は道を教えてくれました。



■ 俳句 短歌 ■

崎山美知子姉

- ◎ 新米と聞くだにうまし今日の寿司
- ◎ 子の為とひたに尽くしし父なりき
- ◎ 敬老の日在りし日の顕つ
- ◎ 「また会う日まで」友が歌いし讚美歌の
声うずくなりあの日の別れ

◎◎◎ 個人消息 しようそく ◎◎◎

* 召天者

高野タケ姉 4月29日(享年87歳)

* 謝敷スエリー姉は日本へ行かれ、ご夫婦そろつて教会生活に励まれておられます。

◎◎◎ おしらせ ◎◎◎

* 連盟主催/高齢者の集い

・ 10月17日(第3土曜)

講師に北米の藤井牧師を招いての集いが予定されています。詳しくは追つて週報でお知らせします。祈りをもって備えて

くださいますように。

* 9月6日(第1) 敬老礼拝 / 午後の催し物は

ありませんが、75歳以上の方には教会からお弁当をプレゼントさせていただきます。

* 9月13日(第2) は、たんぼほ会があります。